

ルーテル学院大学大学院総合人間学研究科
社会福祉学専攻博士後期課程
博士論文審査結果の概要

研究科長・社会福祉学専攻主任
教授 福島喜代子

博士論文提出者 : 18GS-D02 岡田 隆志
論文タイトル : 「精神保健福祉領域における県型保健所から市町村に行う技術支援
に関する研究」

〈審査結果の概要〉

1. 審査委員会

上記論文が、博士（社会福祉学）の学位請求論文として 2022 年 3 月末日に提出されたので、社会福祉学専攻教授会は、その審査のため、本学学位規定第 6 条の規定により、下記の 4 名の審査委員で組織する審査委員会を設けた。

主査	ルーテル学院大学教授	福島 喜代子
副査	ルーテル学院大学教授	金子 和夫
審査委員	ルーテル学院大学教授	高山 由美子
外部審査委員	東京通信大学 教授	田中 英樹

2. 書面審査

書面審査は、学位請求論文提出直後から口述試験が行われた 2022 年 8 月 4 日までの約 4 カ月にわたって上記 4 名の審査委員によって個別に行われ、あらかじめ専攻教授会で決定していた「博士論文評価表」によってそれぞれ評価を行った。また 4 名の委員は総合的な評価を記述した。

書面審査による評価は、先行研究の検討、研究方法、結果・分析、考察など全て A+ または A であった。総合評価は 2 名の委員が「優+」、2 名の委員が「優」であった。

3. 最終試験（口述試験）

最終試験（口述試験）は、2022 年 8 月 4 日に、上記 4 名の審査委員に加え、社会福祉学専攻の以下の者が参加して、合計 8 名で行われた。

教授 市川 一宏

教授 原島 博
教授 山口 麻衣
准教授 廣瀬 圭子

口述試験は、学会発表の形式をとって行われた。すなわち、学位請求者は、論文の内容について、学会の口頭発表と同様に、パワーポイントを使って発表し、終了後、試験委員の質問に回答した。質問は、研究の意義、先行研究に関する批判的検討の必要性、海外のテクニカルアシスタント研究の評価が本研究に与えた影響、技術支援の方法や内容の示し方、分析方法、用語の使い方等についてであった。これに対して、学位請求者は学術的な説明力をもって回答をした。

質問やコメントは、論文の構成あるいは表現の仕方等についての正確さを正す内容か、もしくは論文の内容をよりよくするための加筆・修正の提案であった。

口述試験の評価は、あらかじめ社会福祉学専攻教授会が決定していた口述試験評価表によって行われた。評価の結果は、全審査委員が全ての項目にAをつけた。口述試験の総合評価は、審査委員全員が「優」であった。

4. 最終審査

博士論文審査の判定合議は以下のとおり行われた。博士論文の書面審査の結果が専攻主任から報告された後、口述試験についての評価の結果が報告された。その後、審査委員による合議が行われ、全員一致で、**岡田隆志** 氏の学位申請を承認し、その評価は「優」とすることに決定した。

5. 最終審査の報告と承認

最終審査の決定後、大学院社会福祉学専攻教授会が招集され、専攻主任より審査結果が報告され、その承認がなされた。

(以上)